

ブルーギル (サンフィッシュ科)



学名 : *Lepomis macrochirus*

別名 : ギル

大きさ : 全長 25 cm

特徴 : 体高が高く、体色は暗褐色。鰓蓋（ギル）の後端に突き出た青黒い（ブルー）部分があり、その特徴が名前の由来。背鰭の棘条部と軟条部はつながっている。口は小さい。雑食性だが、動物食性が強い。産卵期は5～7月で、砂礫底に雄が産卵床を作り、オスが卵と仔魚を保護する。

国内の分布 : 全国の湖沼や河川、ため池などに分布

県内の分布 : 各地の湖沼や河川、ため池などに分布。霞ヶ浦では1970年に確認された。

県内での生態 : 霞ヶ浦では動物プランクトンやイサザアミ、テナガエビを食べている。霞ヶ浦・北浦では2002年を境に資源量が減少しているとみられている。

備考 : 1960年に北米から日本に移入された。1970年代からは意図的な放流などによって全国各地に分布するようになった。外来生物法で特定外来生物に指定されている。



写真:産卵床を守るオス(上)と約2cmの稚魚(下)。

主な文献 :

半澤浩美・谷村明俊・野内孝則 (2005) 霞ヶ浦北浦のブルーギルについて. 2003年度茨城内水試事業報告. pp. 49-57.

自然環境研究センター編 (2008) 日本の外来生物. 平凡社.

野内孝則・荒山和則・富永 敦 (2008) 茨城内水試研究報告, 41: 47-54.